



法  
三  
号  
史  
高

414  
A 490



高  
裁  
也  
鳥  
葛  
查  
馬  
職  
制  
每  
高  
勢  
奉  
給  
別

方  
臣  
奉  
高  
勢  
給  
別



方

史



法  
制  
局  
奉  
給  
別

天  
正  
十  
一  
年  
四  
月  
癸  
卯

3996



勘査局職制

長官

三等 一員

勘査官ヲ統一勘査局ノ事務ヲ總提ス

勘査局官員奏任以上ノ進退ハ具狀シテ之ヲ奏請ス

勘査官

一等勘査官 四等

二等勘査官 五等

三等勘査官 六等

四等勘査官 七等

會計勘査ノ事務ヲ分任ス

長官又席スル時ハ上席ノモノ代理スルヲ得

書記

一等書記

八等

二等書記

九等

大正

三等書記	十等	四等書記	十一等
五等書記	十二等	六等書記	十三等
七等書記	十四等	八等書記	十五等

勘查局事務章程

勘查局、各廳院省使府縣以下做之ヨリ具状スル會計年豫算  
精算及ヒ臨時費等ヲ勘查スル所トス

第一條

凡ソ會計ヲ勘查スルモノ分テ二段トス其一ハ既往ニ係リ一  
ハ未来ニ係ル既往ヲ精算トシ未来ヲ豫算トス毎年六月  
三十日ヲ以テ之ヲ區域ニ称シテ會計年トス

第二條

各廳ヨリ具状スル毎會計年ノ豫算又精算ヲ勘查シ其可否  
得失ヲ審察シ豫算ハ五月三十一日限り精算ハ十月三十一  
日限り正院ニ具申ス

第三條

大蔵省ヨリ呈ス各會計年出入ノ豫算精算ヲ勘查シ各廳

具狀ト彼此照會シテ其當否及過不及ヲ審明ニス

第四條

各廳豫算精算ヲ具狀スルノ期ヲ延滯シ若クハ非違誤謬ノ事アルハ主者ヲ喚問督促スルヲ得

第五條

非常ノ天災若クハ已ヲ得サルノ事故ニ因リ臨時費ヲ要スル時ハ其具狀ヲ勘査シ許否ヲ審察シテ正院ニ呈ス

第六條

毎年前會計年ノ總出納表及全國ノ政表ヲ製シ公報ス

第七條

凡ソ會計事務ノ事務ニ付長官若クハ勘査官便宜内閣ニ出頭シ意見ヲ陳述スルヲ得

第八條

本局ノ議ヲ正院ニ捧ルニハ長官之ニ捺印シ長官尺席ノ時ハ上席ノ勘査官代印スルヲ得

呈ス

大正  
文  
官

御達案

院省使府縣

今般勘査局被置候ニ付各廳定額金ノ豫算精算  
上申ノ順序尤之通

一各廳ノ定額豫算及精算 都テ大藏省ノ定規

ニ照準シ豫算ハ毎年四月三十日精算ハ九月

三十日限り上申スヘシ

一各廳ノ豫算ハ前年會計ノ實況ニ因リ之ヲ案  
ニ新タニ起サントスル事務ノ費額ハ區分シ

大  
文  
京

御達案

院省使府縣

今般勘査局被置候ニ付各廳定額金ノ豫算精算  
上申ノ順序尤之通り被定候条此旨相達候事

- 一 各廳ノ定額豫算及精算ハ都テ大藏省ノ定規
- ニ 照準シ豫算ハ毎年四月三十日精算ハ九月
- 三十日限り上申スヘシ

一 各廳ノ豫算ハ前年會計ノ實況ニ因リ之ヲ案  
シ新々ニ起サントスル事務ノ費額ハ區分シ

此所

依ニ付各廳定額金ノ豫算精算  
通リ被定候条此旨相達候事

院省使府縣

算及精算ハ都テ大藏省ノ定規  
ハ毎年四月三十日精算ハ九月  
申スヘシ

前年會計ノ實況ニ因リ之ヲ案  
ントスル事務ノ費額ハ區分シ

大藏省

此即達案ハ一應大藏省ノ照會  
伊後之儀ハ其旨ニ依テ  
○

其方法及期限順序等ヲ詳細ニ掲載シ別途ニ  
稟請スヘシ

一 允許ヲ經タル新起ノ事務ハ逐年其實況ヲ報  
呈シ若シ最初稟請ノ方法期限順序等ニ違  
フアレハ必ス其事由ヲ詳細ニ掲載スヘシ  
一 各廳ノ費額ハ毎年六月中正院ニ於テ議定ス  
ルノ外臨時稟請スルヲ許サス

但シ非常天災等ニ罹リ臨時費ヲ要スルモ  
ノハ此限ニアラス